

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	インバウンド観光産業 I		( TCR220 )
講義名 (コード)	TCR_インバウンド観光産業 I_A		( TCR220A )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	飯田 誠一	時間数	30
成績評価教員	飯田 誠一	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	<p>専門力におけるサービス分野内のホスピタリティ科目として、特にインバウンド観光分野で活躍するためのホスピタリティマネジメントおよびコミュニケーションの基本的な理論、知識、スキルを習得することで、即戦力として活躍できる対人対応力を養成する。</p> <p>日本の地理・歴史・文化の特色と観光産業を押さえ、観光客に対する出迎え～見送り、報告・精算、トラブル対応までの基本的な動作を自ら取ることができるようになる。</p>
全体の内容と概要	日本におけるインバウンド観光産業に寄与する人材としての基本的資質の養成のために、日本の地理・歴史・文化と、インバウンド産業への理解を深め、インバウンド実務の基本動作や安全管理を適切に行うことができるよう演習を行う。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	インバウンドについて知る。国内観光の魅力を発見できる	オリエンテーション インバウンドとは何か インバウンドの今 国内観光の魅力について
2	インバウンド事業を立ち上げることを理解する	インバウンド事業を立ち上げるためになにをするべきか考える ライセンスを取得する。
3	インバウンド事業を立ち上げることを理解する	事業計画案（人員配置、予算策定）どのようなことをしなければならないかを項目ごとにまとめる
4	インバウンド事業を立ち上げることを理解する	やるべきことを項目ごとにまとめられたら、工程スケジュールを考える。
5	インバウンド事業（販売）を知る	どのように販売戦略をするかを考える。
6	インバウンド事業（仕入れ）を知る	どのように仕入れ戦略をたてるかを考える。
7	インバウンド事業（手配業務）を知る	どのように手配組織を構築するかを考える。
8	日本の行事の由来と伝統について理解する。	知識と心構え【日本の行事と芸術】鎌倉を例題に考える
9	日本の食文化について知識を増やし食について理解ができる。	知識と心構え【日本の文化：食文化】鎌倉を例題に考える
10	インバウンド事業（精算業務と資金繰り）	どのように精算業務と資金調達と信用を得るかを考える。
11	インバウンド事業（ウェブ戦略）を知る	どのようにWeb戦略を立てるかを考える
12	インバウンド事業（メディア戦略）を知る	どのようにメディア広告戦略を立てるかを考える
13	インバウンド事業（ガイドアシスタント戦略）	どのようにガイド戦略を立てるかを考える
14	期末試験	期末試験
15	前期授業のまとめ	学んだ内容を整理し理解する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	適宜プリントを配布します。
参考文献・資料等	I S B N : 書籍名/出版社 : インバウンド業務入門 一般社団法人日本添乗サービス協会 会社 ジャパンタイムズ クローズアップ日本事情15 / 新・英語で語る日本事情
備考	・本教員は、観光やホスピタリティ関係の業界にて、勤務・活動している。現在、企業でインバウンド事業を運営している。